

「青戸小学校の文化財探訪の取組」

1. 学校名	南九州市立青戸小学校
2. 学年・人数	全学年 59人
3. 日時・場所	(1) 学習会等の日時・場所 令和7年10月31日 「颯娃のまち探検隊」
4. 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について	(1) 名称・時代 ・ まのひ飛行場跡（まのひひこうじょうあと） ・ トーチカ跡（とーちかあと） (2) 特徴等 第2次世界大戦時、知覧特攻基地の予備として1944年（「昭和19年」）着工開始。機械が足りず、着工がなかなか進まず、未完成のまま終戦を迎えた。指令本部は青戸中、掩体壕はそこから2キロほど離れた所にあり、通信指令室は旧松原小学校と、広大な飛行場を想定していた。
5. 活用の取組において地域との連携や工夫した点等	毎年、6年生が2月に加治佐のトーチカ跡を見学に行っている。歴史学習を経て、ふるさと青戸にも戦争の跡が残っていることに気付かせ、これからの平和を願う態度の育成につながっている。身近に戦争の遺跡があることに気付いていない児童も多く、戦争で大変な思いをした先祖の思いにも気付かせることができる。
6. 取組の様子（研究発表等）	 <p style="text-align: right;">トーチカ跡</p> <p>今年は、天気が悪く、全学年バスの車中からの説明であった。今後機会を見て、現地まで連れて行きたい。</p>
7. 感想・意見 (参加児童生徒・保護者・保存会・教員等)	<p>【児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こんなところで身を隠して、敵の飛行機と対決していたんだな。怖くなかったかな。 <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「トーチカ」という言葉は聞いたことがあったが、実際に目にして、戦争のあった時代の怖さや異様さ悲惨さを感じた。二度と戦争は起きてはならないと感じた。